やっぱり班っていいね！

共同購入班だからこそのつながり

毎週1回、配達トラックの前でにぎやかなアイラブママ班のみなさん。班のメンバーは子育て真っ最中のママ仲間でもあります。班をつくって2年、班の魅力をインタビューしました。

森 翔子さん・逞渡くん　伊藤 香織さん・汐璃ちゃん　中島 里美さん

配達担当の池澤るみさん（写真左）

積極的な声かけで新しい班づくり

共同購入班で生協を利用している、伊藤香織さん、中島里美さん、森翔子さん。それぞれ個人宅配を利用していたことが、班づくりのきっかけになりました。

「個人宅配のお試し期間が終わる前に共同購入班を作ろうと思ったんです」と伊藤さん。「宅配料が無料になるからね」と中島さんが付け加えます。

ご近所の玄関先に、個人宅配のケースを見かけ、「いっしょに班をはじめない？」と、声をかけたそうです。「生協の職員かしら!?と思うくらい」と配達を担当する池澤るみさんが笑います。

週に1度の交流で楽しい時間を

商品受け取り時間は、小さいお子さんをもつお母さんならではの話題がのぼることが多いようです。共済を熱心に勉強し、みんなにお勧めしていたときもあったという伊藤さんは、「生協の共済は病気やケガが多い子どもにとって、手ごろな掛け金で安心できるから、自分がとてもいいと思ったんです。良いと思うものはみんなにも伝えたくなるんですよね」。

他にも商品案内書をいっしょに見て、「この商品おいしかったよ～」「この前買ったよ」などなど、生協商品の話題で話が弾みます。

「春に小学生になる子どものランドセルや机の相談をしたり、上の子のときはどうだったか聞いたり、わいわい話しながらいろんなことを教えてもらっています」と、みなさん顔を見合わせてにっこり。おしゃべりから情報交換までなんでもお話しすることで、みなさんのくらしの裾野もどんどん広がっていきます。

共同購入班だからこそのつながりづくりを

仕事で忙しかった森さんも、元々は個人宅配を利用されていました。産休に入ったころ、共同購入の班に誘われました。「ご近所とはいっても、班がなければこんなにもお話する機会はなかったと思いますね」。共同購入班は、毎週1回、班のみんなと顔を合わせ、おしゃべりし、同じ時間をすごすことで、同じ思いを共有できる大切な時間。この時間がつながりを強くします。

「共同購入では、品物を届けるだけでなく、ご近所同士や地域のつながりを広げる場に、またつなぐきっかけになればいい」と池澤さん。今、地域との「つながり」の大切さが見直されていますが、共同購入で普段から地域の方と顔を合わせているということは、とても心強いものです。

「私自身も組合員のみなさんと仲良くなることは、配達の楽しみなんです」と、配達トラックの前では池澤さんも会話に加わりにぎやかです。アイラブママ班のみなさん、支所で行われる試食会にも参加して、新しい商品に挑戦してみようと計画中です。

つながりの輪は、共同購入から生協を通してくらしのシーンへますます大きく広がりそうです。